

『反戦川柳句集』

レイバーネット日本川柳班編著

(2018年・レイバーネット)

日本・頒価700円)

トランプは武器シンゾウは国を売り

この句集の冒頭にあった乱鬼龍さんの句だ。

「まえがき」によると、この集団による句集の

発行は、一回目が二〇一〇年の『がつんと一句

——ワーキングプア川柳』、二回目が二〇一三

年の『原発川柳句集——五七五に込めた時代の

記録』で、今回が三冊目になるとのことだ。

川柳は五・七・五の俳句と同じ形だが、俳句

が「発句」から発展したのに対して、逆に「前

句付け」から独立したということだ。季語の

縛りもなく、自由な機知で森羅万象あらゆるものを笑いのめすことが出来る。前出の句などは、寸言をもって現代世界の病根を刺し貫く迫力をもっていると思う。

句集の中には、思わず唸るような名作が多いのだが、あまり紹介してしまうと営業妨害になりかねないので、とりあえず三句だけにとどめておく。

この道しかなかった道の先は崖 斗脚

反戦と護憲を危険思想とす 笑い茸

ミサイルが原発止めず電車止め おおとり

この句集の後半には、すぐれた論説や報告の文章が並んでいて、これだけでも優秀な機関紙になっていると思う。発行は昨年十二月、正月早々に、良いものを読ませて頂いたことに、心から感謝したい。(志村建世)

* * *

この句集の副題に「戦争したくない」を贈ります」とある。それを目にした時、テントの強制撤去後も連日続けられている経産省前の座り込みをしながら、にぎやかに「句会」をやっていたメンバーの姿が浮かんできた。句集の選者で川柳班のリーダーでもある乱鬼龍さんは、治安維持法違反に問われ獄死した反骨の川柳人、鶴彬(つるのぶ)の思想を現代に伝えるべく行動を続けている。川柳デモと称し、自作の川柳を大書したむしろ旗を手に国会前を闊歩する姿を親しく思い浮かべる人も多いだろう。

乱さんとの会話の端々にちりばめられる駄洒落やオチに思わず笑いながら、笑いがあるのっていいよね、沖繩の人たちの座り込みの時にもいつも歌や踊りがあるよね、と話したことを思い出す。

句集には、前述の「経産省前脱原発青空川柳句会」と「レイバーネット川柳班」の句のほか、一般公募の数十句も掲載されている。志村さんが触れられた後半の文集の中にも、おっ、と思う川柳がちりばめられている。

状況も他人もそして自分自身をも笑うことができるのがユーモアというものだ、それは逆境にあっても最後まで人を支える力だ、と聞いたことがある。今年も暴走が予想される安倍政権下にあつてそれに抗していく「笑い」のヒントがこの小冊子の中に確かにあると思う。ぜひご一読を。(阿部)

志村建世(しむら・たけよ/作詞家)
阿部めぐみ(あべ・めぐみ/本誌編集委員)

本誌のご購入・連絡先

レイバーネット日本 川柳班

〒173-0036

東京都板橋区向原2-22-17-1108

☎ 03-35530-8588

FAX 03-35530-8578

郵便振替 00150-2-607244

レイバーネット日本(句集とご明記ください)

e-mail labor-staff@labornet.jp.org

(句会参加費無料、飛び入り大歓迎の 川柳班句会への問い合わせも、こちらへどうぞ)

